

体験活動推進地域 桜川市

1 「推進校」の取組全体を含めた「推進地域」としての取組の概要及び成果等

(1) 取組の概要

地域の推進テーマとして「地域の教育力を生かし、豊かな人間性や社会性を育成する体験活動の充実」を掲げ、地域や各学校、児童・生徒の実態に応じて、特色ある体験活動を実施した。

まず、活動の核となる桜川市豊かな体験活動推進地域協議会を立ち上げ、推進校間の情報交換並びに連携及び共通理解、実践等のための交流を行うとともに、体験活動に関連する関係諸団体との連携を図りながら体験活動を通じた学びの充実を図った。

特に、小学校区においては生涯学習課との連携を図り、地域連携型の体験活動を展開した。通学路の清掃等の環境美化活動、福祉施設訪問等のボランティア活動、登山等の自然体験活動、植栽などの奉仕活動、古来の芸術等、様々な分野で各学区及び地域の教育力を生かしながら実施した。また、植栽等の体験活動については、小、中、高等学校児童・生徒が相互交流を図り、異年齢集団活動のよさを生かした体験活動を積極的に実施した。

(2) 特に工夫配慮をした事項

学校週5日制を機に教育委員会が主催して発足させたコミュニティスクール実行委員会を核として、桜川市青少年育成市民会議等との連携・協力のもとに地域連携型の体験活動を実施した。

特に小学校では、地域の指導者との協力体制を基盤に、年間を見通した計画的、組織的取り組みが可能となるよう生涯学習課との連携を密にしながら、事業展開を図った。

(3) 成果等

- 様々な体験活動を行ったことで、児童・生徒の表情に明るさ、豊かさが出てきた。活動意欲も高まり、生き生きとした活動が見受けられるようになった。
- 児童・生徒の生活態度にも規則正しく生活することや時間を守って生活すること、友達との人間関係がより深まるなどいい影響が表れた。
- 児童・生徒の体験活動を組織的・計画的に行うことにより、体験活動そのものが持っている価値を関連させながら実践することができた。
- 地域の協力者、保護者からは、「小学生が街中でゴミの持ち帰りを呼びかけている場に出会った。このようなボランティアのこころを大切にしてほしい」「地域を盛り上げるのには小・中学生や高校生が外に出て、地元で活動することが必要です。学校では是非そのような子ども達を育ててほしい」といった声があった。
- 年間35時間のまとまった体験活動を計画的に実施することで、学校行事と学級活動との関連及び総合的な学習の時間における体験活動の位置付けをより明確にすることで意図的・継続的指導が可能になった。

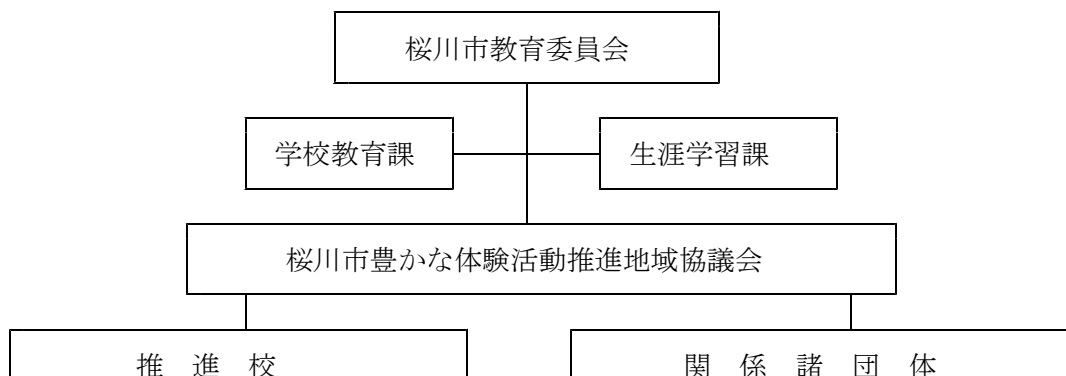
2 推進体制と推進地域協議会の活動の概要と成果等

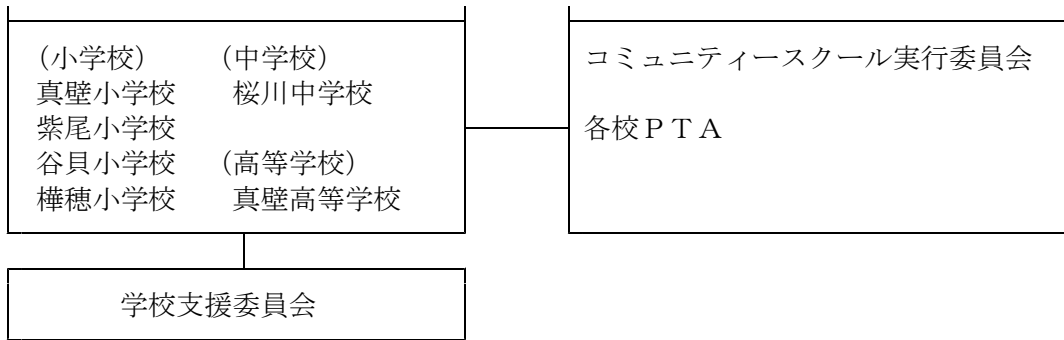
(1) 推進体制と推進地域協議会の活動の概要

桜川市豊かな体験活動推進協議会を活動の核として、各小・中・高等学校と関係諸団体との連携を図りながら事業を推進した。

小学校区を単位とした地域の方々との協力体制を基盤にして地域連携型の体験活動を展開した。それらの基盤を生かしながら中学校ではキャリア教育を視点として体験活動を展開している。また、高校では、小・中学校との連携を図り、植物の栽培等に関する体験活動を積極的に推進した。

【協議会の構成】





(2) 成果等

- 桜川市豊かな体験活動推進地域協議会を通して各学校間，学校種間の情報交流及び地域の協力者との連携が可能となった。
- 学校の取り組みの具体的な計画や内容についての説明を行うことにより，関係者の協力可能な事柄についての具体的な内容に踏み込んだの話し合いができた。
- 生涯学習課との連携を図ることにより，コミュニティースクール実行委員会や青少年育成協議会等の関係諸団体との協力体制が確立できた。

3 今後の課題と改善点

- 体験活動の教育課程への位置付けを工夫して行った学校が多いが，それでもなお，各教科の授業時数の確保との関わりにおいて困難が生ずる点があるのが実状である。更なる体験活動のねらいの明確化と焦点化を進めたい。
- 地域の教育力を活用して学校の体験活動を組織してきたが，学校のニーズに応じた人材の確保が課題となっている。
- 本事業の予算執行が可能になるまでに半年以上かかっているため改善が必要である。事業が決定されてから実際の動き出しまでに期間があるが，手続きの簡素化等で年度当初に事業計画・内容を確定し，遅くとも1学期半ばから活動できるよう配慮したいところである。